

署	長次	長	課長	事業課長	主任係長	係

蘭地振号

平成3年4月12日

俱知安林務署長 岡 繁 様

蘭越町長 官谷内 留 雄



町営チセヌプリスキー場拡張整備事業に伴う事前申出書の
提出について

このことについて、別添のとおり事前申出書を提出いたしますので、よろしく
お取り計らい願います。



事業計画概要書

1. 事業地（保安林）の所在場所及び所有者

所在場所					地目	面積		土地を使用する 権利の種類	権利等の 所得の状況	登記名義人	備考
都道府県	市郡	町村	字	地番		事業面積 ha	解除面積 ha				
北海道	磯谷郡	蘭越町	字湯里	680-1	保安林	64.5798 (1547.6322)	19.5397	借地権	交渉中	北海道	水源かん養 保 健
"	"	"	"	680-3	"	0.9520 (0.9520)		"	"	北海道	"
小計		(保安林)				65.5318	19.5397				
北海道	磯谷郡	蘭越町	字湯里	662-1	宅地	0.1175 (28.5143)		所有権		蘭越町	
"	"	"	"	662-2	原野	0.0932 (0.0997)		"		蘭越町	
"	"	"	"	680-9	山林	0.8680 (0.8680)		借地権	昭和42年 権利取得	北海道	
"	"	"	"	680-1	山林	0.0194		借地権	昭和58年 権利取得	北海道	
小計		(保安林外)				1.0981					
合計(事業区域面積)						66.6299	19.5397				
合計(道有林貸付面積)						66.4192				北海道	

※ 面積の()は公簿地積

1. 事業地（保安林）の所在場所及び所有者

所在場所					地目	面積		土地を使用する 権利の種類	権利等の 所得の状況	登記名義人	備考
道県	市郡	町村	字	地番		事業面積 ha	解除面積 ha				
北海道	磯谷郡	蘭越町	字湯里	680-1	保安林	64.5798 (1547.6322)	19.5397	借地権	交渉中	北海道	水源かん養 保 健
"	"	"	"	680-3	"	0.9520 (0.9520)		"	"	北海道	"
小計	(保安林)					65.5318	19.5397				
北海道	磯谷郡	蘭越町	字湯里	662-1	宅地	0.1175 (28.5143)		所有権		蘭越町	
"	"	"	"	662-2	原野	0.0932 (0.0997)		"		蘭越町	
"	"	"	"	680-9	山林	0.8680 (0.8680)		借地権	昭和42年 権利取得	北海道	
"	"	"	"	680-1	山林	0.0194		借地権	昭和58年 権利取得	北海道	
小計	(保安林外)					1.0981					
合計（事業区域面積）						66.6299	19.5397				

※ 面積の（ ）は公簿地積

2, 保安林の種類及び指定年月日

水源かん養保安林・・・大正13, 12, 25 (農林省告示 第859号)

保健保安林・・・昭和55, 6, 17 (北海道告示 第1614号)

3, 地況及び林況

スキー場予定地は、蘭越町より北東約9 kmにあり、ニセコ山系チセヌプリ(標高1, 135 m)の南向山麓(標高832 m)に広がる、平均傾斜15°程度の緩斜地であります。

地質は、更新世後期輝石安山岩を基岩とし褐色森林土であります。

林相は、ダケカンバを主とし、イタヤ、ナナカマド、シナなどの天然広葉樹林で占められており、林間は疎であり、林床には主にチシマザサが優占しております。

4, 事業名称

町営チセヌプリスキー場拡張・整備事業

5, 事業計画の概要

ア. 事業主体

蘭 越 町

イ. 事業の目的

蘭越町は、稲作を中心とした農業を基幹産業として発展してきましたが、近年の農産物、特に米の過剰生産基調から生産調整が余儀なく行われ、併せて、農畜産物価格低迷、さらには、外国産の農産物輸入自由化等、農業経営に対する風あたりが強まっています。

したがって、農業後継者及び離農による人口の町外流出が増加し、昭和40年には11,318人でしたが、昭和50年8,574人、昭和60年7,553人と町の人口は大幅に減少し、過疎化現象があらわれ、地域経済の低迷気味など深刻な問題となっています。

観光事業においては、冬期間における町内温泉旅館の宿泊者が町外スキー場に流出し、宿泊者も伸び悩みの状況にあります。

これらの諸問題の解決策として、当スキー場を拡張・整備されることにより従業員の増加が見込まれ、地域住民の就業の場や安定した定住環境を提供することになり、また、利用者の増加は、町内温泉旅館への宿泊客の増加等、本町の地域経済に与える波及効果は大きく、地域活性化対策として期待されております。

ウ. 拡張・整備の必要性

(1) 施設の老朽化

町営チセヌプリスキー場は、昭和42年の開業以来、現リフト施設を利用してきており、設置後20数年経過し、毎年多額の経費を投入しつつ整備してきましたが、老朽化がはげしく、万一の事故等が憂慮される状態にあり、利用者からも安全第一に利用者ニーズに合った近代的なリフト施設整備に更新が強く望まれています。

(2) コース

現在のスキーコースは1本であり、近年のスキーヤーにとって当ス

スキー場は、魅力に欠けているスキー場となっています。

スキーヤーの利用傾向は変化しつつあり、スキーコースのゲレンデが整備されさらには、各スキーヤーのスキー技術に合ったコース選択ができるスキー場の拡張・整備が強く望まれています。

(3) 起点・終点の位置

起点においてはコース幅が狭く、さらに終点は傾斜地の中腹に位置しており、町営チセヌプリスキー場を利用するスキーヤーの安全性及び教育的利用時における統一的な指導を行うには支障をきたしている状態にあります。

スキーコースを拡張・整備し、町民等が安全で快適なスキー場として利用されるよう徹底した安全管理に努めたい所在であります。

(4) 学校教育の場としての質の向上

当スキー場は、町営スキー場として開設以来、町民の利用は多く、特に町内の小・中学校におけるスキー教育の場等の利用は、年々増加傾向にあります。

小・中学生の学校単位のスキー教室やスキー大会の利用、さらには、町外の学校関係の利用も多くあります。

しかしながら、当スキー場のリフトは輸送能力が少ないため、待ち時間が多くなったり、集団的に利用する場合などには、混雑による危険度が増し、さらには、集団的な指導において支障をきたしている状態であり、終点、それぞれの位置の移動が望まれています。

このため、起点・終点においては、それぞれ広い平坦地に移動する計画をしています。

当スキー場は、このように今後も一般利用はもとより、町内外の学校教育におけるスキー場としての場を提供していく方針であり、この計画を機会に小中学生及び初・中・上級者用のスキーコースを増設し、

安全運営に努めながら、学校教育関係者の要望に応えたい所
在であります。